

令和6年度 島根県立松江養護学校 学校評価表(評価結果)

学部等	評価計画		自己評価			学校関係者評価		
	重点目標	評価指標	実績(%)	評価(ABC)	分析・評価・達成状況(記述)	次年度に向けた課題・方向性(記述)	評価(ABC)	意見(記述)
小学部	・児童の主体性が発揮される授業づくり ・教師が話しやすい環境づくり	【教員】 ・児童の主体的な姿が一つでも見られた授業をつくれた、と感じた教員が80%以上。(アンケート) ・話しやすい環境になっていると感じた教員が80%以上。(アンケート)	100% 95.2%	A	・目標80%は達成できた。魅力的な題材、自分で考えて決める自由度と考える時間の保障、友達や教師との関わりによって、児童の「やってみよう」という姿が多く引き出された。 ・目標80%は達成できた。話しやすい環境と感じた先生が多かったが、色々なやり方を受け入れる柔軟性や、否定しない聞き方を求める意見もあった。	・今後も児童の目指す姿を共有しながら授業づくりをしていく。よい題材や教材を学部内で共有しながら取り組んでいく。 ・色々な意見を、まずは否定しないで聞く話し合いの進め方を検討、共有しながら取り組んでいく。	A	児童の発達段階に応じて適切な支援をし、教材研究等もなされていた。そのことにより児童の主体性につながった。  教育環境作りが高い意識で臨まれている。  体づくりをテーマとし、生徒の実態に応じて運動やニュースポーツに継続的に取り組まれたことが良かった。
中学部	・体を動かすことの楽しさを感じたり、障害者スポーツに興味をもったりする。 ・地域に向き、いろいろな人と接する中で、生活に必要な習慣や技能を身に付ける。	【教員】 ・生徒の実態や特徴を考慮しながら、継続的に体づくりの運動に取り組んだと感じた教員80% ・いろいろな場面を活用し、ニュースポーツに取り組んだと感じた教員80%	96.2% 84.6%	A	・1校時の取り組みを中心に、継続的に取り組めた。生徒の体幹や姿勢が良くなるなど、変化が見られた。 ・体育や生活単元学習などの時間で取り組めた。実態差のある集団でも、ルールや取り組み方を柔軟にすることで、色々な生徒が楽しみながら取り組めた。	・生徒の課題に応じて、どのような体作りが効果的なのか、生徒の実態に応じた中学部共通のメニューを考案する。 ・今後も、日頃からニュースポーツに触れる機会を保障していく。また、地域レクに参加していけるように、啓発活動も行う。	A	人権意識という特別支援教育の基本が十分に守られ、地域への発信も行われている。  様々な課題が存在、発生する学校現場においては報告連絡相談を徹底しチームとして対応することは重要。  高校生として主体性をテーマにしたことは良かった。
高等部総合コース	【教員】 ・生徒の人権を意識し、生徒の気持ちを尊重しながら主体性(自分で考える、決める、行動する)を育む。 ・報告・連絡・相談を迅速に行い、チーム(組織)として対応する。	【教員】 ・生徒への言葉かけ・呼び方を意識し、生徒の主体性を引き出す授業づくりや、生徒の気持ちに寄り添ったかかわりができた70% ・些細なことも報告・連絡・相談し、チームで対応することができた80%	93% 93%	A	○年度初め、半ば、必要に応じて伝えたことで、共通理解を図ったり、意識して取り組んでもらったりすることができた。 ○報告・連絡・相談については、些細なことでも確認して、迅速に対応できた。それによって、保護者対応も迅速に行うことができた。 ○生徒対応において、その場での指導が必要な場合において指導をすることの大切さの共通理解とその後の報告の必要性の確認の不足があった。	○生徒の主体性を育む、夢や目標をもって取り組む→授業力の向上(生徒の興味関心)、生徒の思いや気持ちに寄り添い、生徒が自信をもって活動できる(自分で考える・決める・行動する)、教職員の方向性を合わせる ○保護者・地域との連携→個別対応・不登校の生徒の対応等について連携、ケース会等の実施	A	生徒の主体性を引き出す授業づくりや生徒の気持ちに寄り添ったかかわりについても継続してほしい。  学部全体で生徒理解や共有のための時間を確保して対応していかなければならないほど生徒の実態が様々な状況であることも伝わってきた。今後も多様化する生徒に対応するためにも効果的な取組を工夫していかれることを期待する。  就労・社会参加への必要な学びについて、学年学部等と連携しながら行われていると評価できる。
	【生徒】 ・地域に関わろうとしたり、思いを伝えたりする	【生徒】 「地域を活用した学習に取り組んだ(取り組もうとした)」「地域の人に思いを伝えた(伝えようとした)」「地域の人に喜んでもらって嬉しかった」  と感じた生徒が70%	85%	A	○年間の販売計画を基に、地域と関わりながら実施できた。 ○松養まつりの販売会やワークアップ松養では、生徒が積極的に地域の方とかわる工夫をした。 ○各学年で計画的に地域と関わりながらの学習計画を縦実施できた。	○年間に計画した販売会以外に入ってくる販売会の調整、精選。 ○生徒自身もつと販売会に参加できる形の検討。 ○販売会、総合的な探究の時間以外での地域とのかかわれる学習の実施。(スポーツ等)	A	想像以上に色々なことに取組機会を作ってくださいる学校に日々感謝している。今後も期待している。  安来分教室について「現在や将来、地域の中で自分の力を生かすことができる」と感じた生徒の割合が高いことは学習内容を地域交流、地域貢献へ繋がる活動になるよう見直した成果であると感じた。
高等部職業コース	【教員】 ・就労や社会参加に必要な力や態度を育成するという視点を持ちながら生徒の実態や課題を意識して学習場面を整える。  ・生徒が適切に自分を捉えるサポート(障害の特性や合理的配慮、長所短所の理解等)や必要な情報提供を行う。	【教員】 ・就労や社会参加に必要な力や態度を具体的に示している・・・70% ・学級を中心に学年学部等と連携した取り組みを考えるとともに生徒についての情報を必要に応じて共有する・・・70%	96% 84%	A	①実施できた。 ・実施できたという評価ではあるが、新しく着任された方への周知は妥当だったか検討が必要。  ②学年部の中での共有はできていた。 ・支援についての相談、ということでミニケース会を開催できたよかったケースもあった。 ・学部全体の共有事項(周知し、縦割り遊行でも課題を共有するなど)できるとよい。 ・生徒増、見えてくる課題も増、生徒理解、共有 となると行事の精選も考える必要があるか。 ・毎年行っている生徒一人一人の中心課題を考える会について、学級、作業学習ごとにまとめたものはあるが意識的に活用できていたか検証が必要。	・引き続き生徒が卒業後、働くために必要な態度や力を育むための場面や機会を逃さず指導を行えるよう整理する。 ・中心課題は実習、作業学習とリンクさせ、生徒教員ともに意識して取り組む。 ・自立に基づいた配慮が必要な生徒も多いため、中心課題を検討し、ミニケース会を開催できるよう周知する。また、中心課題は活用できるよう働きかける。	A	販売会について今後も取材をしていく。  生徒が自己決定できる機会が設定され、タブレット活用等による成果も出ている。
	【生徒】 ・地域の方とのかかわりの中で日頃の学習の成果を発揮し学習を深めることで、地域のよさを知る	【生徒】 ・「地域を活用した学習にもっと取り組みたい」「地域の人ともっとかかわりたい」と感じた生徒が70% ・「現在や将来、地域の中で自分の力を生かすことができる」と感じた生徒が60%	79% 67%	A			A	今後、スポーツに興味をもった児童生徒がどのように継続し、スポーツを一つのツールとして地域や社会等とつながっていくかも重要である。  保護者の本心を聴くことについて検討が必要。  些細なことでコミュニケーションをして保護者対応も迅速にすることが重要。
高等部安来分教室	地域での生活に生きる、つながる授業の実践 【教員】 ・「カリキュラムマネジメントの実践が、生徒を主語において授業づくりや教育課程の改善につながった」と感じた教員の割合70%	【教員】 ・カリキュラムマネジメントの実践が、生徒を主語において授業づくりや教育課程の改善につながった」と感じた教員の割合70%	75%	A	・学習内容、行事、作業学習、販売会、実習などについて、各グループで見直し課題点や改善案を出した。全体ですり合わせ、意見を言うことで来年度に向けての年間計画を考えることができた。 ・安来分教室全員で来年度の活動について生徒がどこでどんな力をつけるのか考え整理することができたことがよかった。	・全員で生徒の実態把握を行い、生徒主体になる授業作りを行うために大切にすることや支援方法について共通認識をもつ。 ・子どもが主語の授業づくりを、来年度はカリマネ+研究で進めていく。子どもが自分から学ぼうとする授業を目指して、今後も自分の授業の改善をしていく。	A	就労や社会参加に必要な力や態度を具体的に示している、が70%なので次年度はUPしてほしい。  「現在や将来、地域の中で自分の力を生かすことができる」と感じた生徒の割合がもっと向上するといと感じた。
	【生徒】 学校で学んだことを生かし、地域のためにできることを考え、実践する。	【生徒】 ・「地域を活用した学習にもっと取り組みたい」「地域の人ともっとかかわりたい」と感じた生徒が70% ・「現在や将来、地域の中で自分の力を生かすことができる」と感じた生徒が60%	69% 77%	A	・地域のためにできることを生徒自身が考えて活動を行うことができた。 ・生徒がより主体的に学習に取り組む、地域交流、地域貢献へつながる活動になるよう見直した。 ・地域に安来分教室の学習活動を知ってもらう機会が設定できた。		A	新しいグランドデザインが示された。従来の形ではなく非常に優しい表現のデザイン型を採用された。児童生徒、保護者の皆様そして地域の皆様になじみやすい構成になっており、来年度以降の学校活動に大いに活用されることを期待します。また教育委員会への多数の意見が発現されたが、学校運営が少しずつでも速やかに改善されることを強く望みます。
寄宿舎	自分の役割を自己決定し、主体的に活動に参加する姿	【教員】 ・生徒が自己決定できる機会を設定できたか。70% ・個々に応じて、内容を理解したり自分の考えを伝えたりできる支援や環境調整をすることができたか。70%	77% 73%	A	・タブレットを活用することで、以前に比べて自分から取り組もうとする姿が見られるようになった。また、指導員のもっている答えや考えを伝える前に、生徒自身がどのようにしたいのか、どのように考えているのかを確認することは生徒の主体性や責任感をもたせることに有効だったと考える。 ・一斉指示や全体の話し合いでの理解が難しい生徒に対しては、事前に内容を伝え考えを確認したり、事後に振り返りをして内容の理解度の確認をしたりした。	・自己決定できることが増えてきたが、役割や仕事が決めた後の話し合いや実施についても生徒主体で進められるような支援を考えていく必要がある。 ・生徒が理解し自分の考えをもつに至るまでの支援に難しさを感じることがあった。生徒の実態や得意不得意なこと様々なので、事前や事後のあり方も個々に合った方法で、かつ誰があたって同じ方針で支援できるようにしていった。	A	令和7年度のグランドデザインに見られるように一層の教育活動の充実を願っています。「明るく」を前面に子どもを中心に教員・保護者・地域が本音で語り合えるあたたかい学校を見守り、応援、協力したいと熱く思いました。